

FD 通信 No. 1 1

飯田女子短期大学 FD 委員会

<http://www.iidawjc.ac.jp>

FD 活動の充実と学生の学習成果獲得

FD 委員長 北林ちなみ

FD 委員会が再発足して、今年度で3年が経過しました。例年と同じ活動項目ですが、その内容が少しずつ改訂されてきています。授業改善アンケートにおいては例年通り各教員1回以上実施することになっており、今年度は非常勤の教員も実施した学科がみられました。また、結果を冊子にして学生や教職員、学外の方々に配布していましたが、委員会内で検討し各学科の意見を参考にして今年度から教員にはメールにて配信し、学生や学外の方々には冊子を配置し見られるように改善を行いました。学内公開授業では、開始当初は学科専攻内だけの実施でしたが、現在では学内で授業を行っている教員の授業すべてが対象として参観できるようになっています。学科専攻を超えて参観したり、加えて非常勤教員の授業を参観することも行われています。

このように徐々に改訂が行われている中、教員は授業改善アンケートを実施し結果の検討を行い、学内授業公開でも教員間で授業参観を実施した後の振り返りを行うことで、授業内容・実施方法の改善に努めています。今年度のFD研修会では、昨年度行ったアクティブラーニングの講演会をもとに自分が実施している授業の工夫点や今までに受けた印象に残っている授業について話し合い、到達目標達成のために工夫している具体的な授業方法や参考となる内容などが発表されていました。今後この学びを生かして、学生の学習成果獲得が向上するように、教員個々の授業方法などが少しずつでも改善されていくことが望まれます。

今年度は仁愛短期大学と相互評価を行い、本学が改善していくべき点が明確になりました。自己点検・評価は、短期大学の社会的使命や独自性を認識したうえで、教育研究活動の継続的な質の保証を図るために行われています。今回の評価基準の観点において、学生の学習成果獲得に関する項目が多く見られます。高等教育における教育の質の向上が求められており、それを保証することがFD活動の目的と言えます。

以前のFD通信でも書きましたが、「FD活動により教職員全体で教育改革の取り組みを行っていかなければ、今後短期大学として存続していくことが難しい」といわれています。今後もFD活動の必要性を理解し、自主的に授業の改善を行い、責任を持って授業を行うことで学生の学習成果獲得と教育の質の保証につなげる努力をしていきましょう。

目次

FD 活動の充実と学生の学習成果獲得	FD 委員長 北林ちなみ	ページ 1
<FD 研修会> 研修会報告	FD 委員会 田中住幸	ページ 2
家政学科 林幸平 / 幼児教育学科 松永幸代 / 看護学科 長谷部みさき		ページ 3
<特集：公開授業・授業改善アンケートについて 看護学科>		
授業改善アンケート 松尾由貴子 / 公開授業実施 所澤好美 / 公開授業見学 川尻由美子		ページ 4
<キャンパスライフに対する学生満足度アンケート実施結果>	教務課長 山口 正之	ページ 6

<FD 研修会報告>

今年度の FD 研修会は、「授業の実施方法や実施時の工夫—学生が学習成果を獲得するために—」といったテーマで、6 グループに別れてグループディスカッションを行いました。グループは、学科・専攻に関係なく、ランダムに振り分けられ、各グループに FD 委員が 1 名配置され司会を務めました。私が司会を務めたグループで話題にあがった点は、基礎から応用、実践へとつなげていく流れ、黒板やプロジェクター、椅子・机の配置などの教室環境に関わること、教科書・板書・ノート・プリントの活用方法について、リフレクションペーパーの活用実態について、時間（90 分）の使い方（流れ）など、非常に多岐にわたる内容となりました。話題は多岐にわたりましたが、ディスカッションの根底には常に「学生自身」のことや「患者さん、利用者さん、子ども達」のことが意識されており、人に関わる人を育てる先生方ならではのディスカッションとなりました。また、他のグループに参加された先生に感想をお聴きしてみたところ『授業で「学生が何をどう学んだか」と考えれば悩みは尽きませんが、相談することもできず一人で抱え込んでいました。研修として機会が設けられ



たことで他の先生方と話し合うことができ、悩みを共有したりアドバイスを頂いたりすることができました。』といった感想や、『私たちのグループでは、学生たちの学力をどの様に引き上げるのか、また学修成果をどの様に確認するのかについての工夫が議論されました。』といった感想をお聴きすることができました。アツという間の短い時間ではありましたが、新年度に向けて良い弾みをつけることができた研修会となりました。皆様、ご参加ありがとうございました。

（文責 田中 住幸）

FD 研修会での学び

家政学科 林幸平

今回の研修のテーマ「授業の実施方法や実施時の工夫についてグループディスカッションを行う」ということで複数のグループに分かれ、他学科の先生方と交えながら、授業展開のお話を伺う貴重な研修となりました。授業の最初に今回学習する内容をレジメにして配布される先生や、授業終了前に今回学習した内容を再度確認される先生、または昨年度の研修テーマである「アクティブラーニング」を用いて学生が能動的に学習できる環境づくりについてもお聞きすることができました。各グループの様々な授業の工夫点や環境づくりをお聞きすることで、私なりの答えではありますが「学生への思いやる気持ち」が教員として大切な能力なのかなと感じました。

私は、助手である立場で主として学生に伝える立場ではありませんが、何処か共通するところはあるのではないかと思います。教員として 1 年過ぎようとしています、今回の研修を通して、私が欠けている能力なのかなと痛感させられました。この 1 年を振り返ると、思い当たる節がいくつか頭の中で浮かんできます。

教科書の中で正しい答えを導き出すだけの授業では教員の自己満足に過ぎないのかなと思います。学生が理解しやすいように解説していくのはもちろん、授業が面白いと思ってもらえるような授業展開や環境づくりが今後の教員に必要な資質なのかなと思いました。そのために先生方は様々な工夫を凝らし結果、それは思いやる気持ちから来ているのかなと先生方の熱意を感じました。

今回のテーマとは少し視点が変わりましたが、今回の研修を通して今、私に必要な能力を知れたことは本当に良かったと感じています。来年度から新たな気持ちで学生たちと向き合っていきたいです。

高め合う場に

幼児教育学科 松永幸代

短大教員となり、3年が過ぎた。以前勤めていた小学校では、各学年代表者が研究授業を行い、全教員がその授業を参観した上で事後検討会を行う。参観する授業は、過去や未来に同じ内容を教える可能性のある授業である。また、子どもたちを6年間どのように育てていくか共通理解をしながら進んでいくための研修会でもあった。そこでは連帯感のようなものが自然と生まれていく。しかし、ここ（短大）ではそれぞれが専門性をもって授業を担当するため、一人一人は別々の授業を行うことになる。どのように授業を構成していくのかを考える作業は、自分と向き合う作業となる。学科の先生に相談することはあるものの、孤独感のようなものを感じるがあった。

今回のFD研修会では、他学科の先生方と授業実践の交流をさせていただいた。昨年度の研修会でアクティブラーニングについて学んだことを受けての実践交流である。若手の先生が模索しながら多角的に学ぼうとされていること、先輩の先生方の学生理解に基づいた授業構成の方法、授業後に行う反省を次年度に生かす姿勢など、多くのことを学ばせていただいた。大変収穫の多い研修会だった。

「現在の学生は、スマホ世代。問題解決の際には、すぐに検索し、一発で答えを導き出そうとする。図書館で資料を調べるという古典的な方法は、すぐに答えにたどり着かないこともあるが、その周辺にある資料にも目が行き、知識や思考が周辺の領域に広がることもある」ということが話題に上った。学科は違っても、専門は違っても、どこか重なる部分があるものである。自分自身が視野を広く持ち、学生にとって有意義な授業のあり方について、今後も学び続けたいと思う。



主体的に学んでもらうために

看護学科 長谷部みさき

FDとは「大学の教員などが授業の水準を高める努力のこと」とであると、新任教職員研修で教えていただいた。病院で看護師をしていた私にとって教員として学生に授業を行うという経験はなかったため、後期から始まる授業のために前期から可能な限り授業を聴講した。実際授業を行ってみると、学生が「理解できる」、「イメージできる」授業を行う、ということの難しさを痛感した。

研修中のグループワークの中で課題として上がったのは、学生のやる気やモチベーションが異なる現状の中で、学生自身が主体的に学んでいくためにはどうしたらよいか、ということであった。具体的に「レジメを事前に配布することで主体的に学ぶ姿勢を引き出す」、また「前回の内容を復習することで授業の繋がりを示す」など、先生方の工夫をお聞きすることができた。特に、説明するときは視覚的に資料を用意し、学生がイメージしやすいように教材を工夫するということが重要である。しかし教材の工夫だけでなく、学生自身が学んだ内容をグループワークで共有し、互いに理解できたという感覚を味わうことで、考え、学ぶことに喜びや楽しいとすることがモチベーションアップに繋がり、更に〈主体性的に学ぶ〉ということに繋がる、と学ぶことができた。学生が主体的に授業に参加し、「理解できた」、「イメージできた」と感じるには、学生が「わかりやすい」、「イメージしやすい」授業を行わなければならない。「学生に何を学んでほしいのか」、「理解してほしいのか」を明らかにして授業に臨む、教員としての姿勢も必要であると考えた。教育について知識や方法もまだまだ勉強中だが、今回の研修会を通して先輩方からいただいたアドバイスをもとに少しでも学生が主体的に参加できるような授業ができるよう努力していきたい。

＜授業改善アンケート＞ 授業改善アンケートを実施して感じることで、授業にどのように活かしていくかまとめていただきました。今回は看護学科の先生方をお願いしました。

授業改善アンケートを実施して ～「わかる授業」を目指して～

看護学科 授業改善アンケート 松尾由貴子

教員となり、学生に授業をする立場となりました。これまで自分が業務の中で経験してきた教育活動は地域住民が対象であり、その反応はとても豊かで明確なもので住民と共に作り上げる時間でしたが、やはり学生は違いました。「新人の先生の授業はどのようなものだろう」という学生の査定の空気を感じつつ、反応は乏しくとも積極的に問いかけることで、少しでも疑問や興味をもちながら理解を深め、主体的に授業に参加してほしいと願い取り組んだ一年でした。

毎回の授業終了時に感想記入用紙を提出してもらっていますが、授業改善アンケートの実施は担当科目全体への評価と学生の認識の理解のために必要なものであると実感しました。特に終了時アンケート項目 6.7. は非常に重要であり、学生がそう答えられるような組み立てや内容であるように努めていかねばならないと考えます。今後更に、授業に興味関心をもち主体的に参加できるような問いかけの工夫、用語の説明、事例の提示等をしていきたいと思います。

授業のあり方を考えた時、「教育を行う」よりも「学習を支援する」姿勢で取り組みたいと考えます。知識や方法は目的達成に向けて、課題や問題を解決するための必要条件であって、学習における最終目的ではありません。「何のために学習するのか」という目的意識をもった時、学習は自分のものになり「自分の力」が身につくことになると思います。そのためにも、授業改善アンケートは学生のリクエストに 応えるものではなく授業技術改善のためのものであることに留意し活用しつつ、「わかる授業」を目指したいと思います。

＜公開授業＞ 公開授業を実施した感想や思い、公開授業を参観した感想や思いを寄せていただきました。

公開授業を通して感じたこと、授業への思い

看護学科 公開授業実施 所澤好美

本学の FD 活動の中に学内公開授業があります。普段の授業評価は、授業を行う中で捉える学生の生の反応や、授業改善アンケートから自分で評価していますが、主観的な評価に偏りがちです。しかし公開授業で得られる意見は、教員の視点で客観的に観て頂いたもので気づける点が多々あります。例えば、私の場合は話し方です。学生アンケートでは「話が早すぎる」などがあり自分では早口だと思っていましたが、公開授業では、「ゆっくりとした口調で・・・」などの意見があり授業のペース配分を考える時に役立てることができ、また事例の組み立て方など違う視点の意見があり参考になりました。授業参観時には分かり易い言葉や伝え方など、学生が理解しやすい言葉や文章を知ることができました。またこの活動で頂いた嬉しい意見は、授業がうまくできなかった時にこっそり読み返して自分を励ますことにも重大な役割を果たしてくれています。

学生からはよく、この授業のポイントを教えてほしいといわれることがあります。この辺りは私の苦手とするところです。「ここはポイントだよ。国試によく出る」と言うと、確かに学生はさっと書き始め私をほっとさせてくれます。授業でよく使う手です。しかし、患者さんには様々なことがおきる、だからすべて大事だとも思ってほしいと考えるとなかなかポイントは絞ることができません。授業や実習を通して学生には、知識の使える看護師になってほしいと願っています。国家試験が最終目的ではありません。臨床で患者さんに出会った時に、様々な知識を使って適切な看護を提供し更にリフレクションできる看護師になることが私の願いです。そして私自身も、授業や実習を通して自分の看護の質を上げることを目標にしています。公開授業の中で「教員の看護観が伝わっていた」という意見を数回頂きました。そう云われると私の看護観はどのようなものなのか、そしてその看護観に対してどのように思われるのかなど、それぞれの教員の看護観など含めて語り合える時間があったら、自分の看護観と共に授業内容の質を考えることができるのではないかと思います。

教える立場になって、学生が「分かった」と目を輝かせ表情が変わった場面に出会ったことがあります。本当に目がきらきらしてぱっと明るい表情になります。その時の感動は忘れられません。この瞬間に出会うために努力をしていきたいと考えています。

公開授業を参観して

看護学科 公開授業参観 川尻由美子

今回の公開授業では、看護学科2年生の講義授業を参観させていただいた。私の学生との関わりは臨地実習がメインということで、実習に向かうまでの基礎知識はどのように養われているか、また学生が講義授業でどのように学び、実習への学びにどのようにつながられているか、どのように生かされているか知りたいと思い授業に参加させていただいた。また、3年次の実習で学生と関わる前に、今の2年生の学びに対する姿勢を実際自分の目で見て感じ確認することで、実習で関わる際の指導に繋げていけたらという思いがあった。

授業では課題に関して、グループワークや席の隣同士でディスカッションし発表するという時間を設けることで、学生が主体となり答えが導き出せるよう工夫されていた。課題を仲間と共有し考えることで、更に学びが深められていると感じた。教員は、現場での経験や知識を伝えたり、要所で学生に問いかけることで、学生が集中力を切らすことなく学習に取り組むことができていた。授業資料は授業終了時に、次回使用する資料を配布することで、しっかり予習をして次の授業に臨めるような工夫がされていた。参加型の授業であり、学生が生き生きとした表情でしっかり最後まで集中して学ぶ姿がみられた。

最近の看護師国家試験の出題傾向を見ると、「複数科目の知識を統合する力」「各分野の知識を統合して実践に活かす」という点を重視する流れがある。今後の学習でも、「なぜこのような症状が起こるのか」「どうしてこのケアが適切なのか」といった根拠を踏まえた上で、より実践的なアセスメント能力を養っていくことが必要だと考える。これからは、丸暗記をして知識を増やすだけの学びではなく、現場で活躍のできる看護師になるための学習や自分で考え行動する力「考動力」のある学生を育てることが必要であると感じている。

今回、学生の主体性を大切に「考える力」を育む授業に参加させていただき、学生への発問の仕方や学生の学びに対する興味の引き出し方を学ばせていただいた。今後の学生との関わりで、この学びを活かしていきたいと思う。

キャンパスライフに対する学生満足度アンケート実施結果

教務課長 山口正之

キャンパスライフに対する学生満足度アンケート（平成 30 年度）を SD 委員会が中心となり行った。調査方法は、昨年同様 4 段階の選択で行った。対象学生数は、507 名、回収数 450、回収率 88.3%（昨年度 85.7%）であった。学生生活全般への満足度は 76.6%の学生が満足と回答し前年度の 76.8%と変化がなかった。

『職員の対応・サポートに関する満足度』は「図書館員の対応に満足している（3.5）」次いで「学生課の対応に満足している（3.4）」の点数が昨年同様に高かった。事務局の点数はほぼ同数であった。点数が低い項目として「こころの健康について相談できる環境がある（2.8）」「からだの健康について相談できる環境がある（2.9）」であった。この項目については、例年点数が低い傾向があるため、今年度新たに自由記載の項目を設けた。その結果、学生が抱えているこころとからだの相談できる環境について書かれていた内容は、「相談場所がわからない」「誰に相談したらよいかわからない」「情報がなく、頼みにくい」など相談に関して環境が整っていないと感じる学生がおり、相談場所の周知が不足している声が挙がっていた。今後、学生への周知方法をわかりやすくし、学生がもっと気軽に相談しやすいようにサポートをしていきたい。

『学生生活についての満足度』にある「キャンパスにはくつろげる空間がある（3.0）」について、「どんな空間があったらくつろぐことができるか」という自由記載項目を追加した。学生からは「個室スペース」「完全個室」「自習室」「区切られている空間」などの一人になれる場所や、「静かな空間」「カフェ・コーヒーやお茶が飲めるスペース」「ソファ、学生ロビーの椅子の増設」などのゆっくりできるスペースが挙げられていた。学生は、キャンパス内のくつろげる場所として、ゆったりできて一人になれる空間を望んでいることがわかった。今年度、食堂に一人用の区切られた席を設置した。今後、学生が人目を気にすることなく、リラックスできる場所が提供できるように検討していきたい。

教育活動に関する項目や入学した時点と比べた知識や能力の変化については、各学科・専攻で情報を共有して教育活動の充実に生かしてもらいたい。

今回の調査では、今まで学生満足度が低かった項目に対して自由記載項目を追加し、実際に何が問題と感じているか調査することができた。学生が感じる不満を具体的に知ることができ、今後の学生対応や情報提供の際の参考にしていきたい。また、今回の結果を踏まえて、次年度、少しでも学生の不満が取り除けるように学校全体で取り組みを行っていきたい。

編集後記

FD 通信 11 号をお届けします。お忙しい中、寄稿にご協力いただいた先生方に感謝申し上げます。今回の特集では授業改善アンケート、公開授業について取り上げました。各先生方、看護学科での授業改善アンケートや公開授業をどのように実施しているのか、どのように感じているのかなど情報を得る機会にさせていただけたらと思います。本通信で多くの情報が共有され、今後の FD 活動がより充実したものになることを願います。

（編集担当：神澤絢子）

飯田女子短期大学 FD 通信 No. 11 （発行日 2019 年 3 月 31 日）

FD 委員会委員長 北林ちなみ

委員 神澤絢子 熊谷教 竹村春香 田中住幸 矢澤玲子 山口正之

※FD 通信へのご意見ご感想をお待ちしております。 fd@iidawjc.ac.jp